
青春の冬

羅夢音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

青春の冬

【Nコード】

N3614T

【作者名】

羅夢音

【あらすじ】

俺（冬馬）と君（こいつ（春華））が付き合い始めて2年が経とうとしている。

なかなかデートにも行っていないし、性格も正反対の2人だが、関係は良好で、周りの誰もが認める仲である。

そんな2人が送る愛と葛藤を描いたストーリー

第1話（前書き）

今回が初めての作品で

あまり上手に書けていないと思いますが
精進していきたいと思うので

感想やご意見よろしく願います。

第1話

服に着いた雪を払うのさえ忘れていた。

「なんで…」

扉の先には君がいた…

いつもはメールなのにあの日はなぜか電話がかかってきた。

「もしもし…冬馬？」

「携帯にかけたなら俺にしか繋がらないだろ。」

「念のためだよ！念のため。」

俺は、いつもように話を進めた。

「で、何の用？」

「あのさ、冬馬って何色が好きだったけ？」

そんなの聞かなくても分かるだろ

「黒」

「やっぱりか。いつも着てる服黒ばかりだしね。」

「なんで色？」

「秘密」

こいつはいつも答えを”秘密”で片付ける。

「お前なあ…まあ、いいか…」ところで明日昼の1時から開いてる？」

「明日の1時は…ちょっと待って」

俺が言うのも何だが、こいつは友達が多い。たぶんそれはこいつの人柄が良いからだろう。

実は、本人には言えないが、こいつは誰からも信頼される自慢の彼女である。

まあ、だからスケジュールが詰まっててデートですらなかなか行けない。

「っあ。大丈夫っばい」

「じゃあ、明日１時に春華んちに行くから。忘れんなよ!」

「分かってるって」

電話を切った俺は１ヶ月前にこいつ…いや、春華と写った写真に目をやった。

満開の２人の笑顔がそこにはうつしだされていた…

第2話

「冬馬、もう10時よ！さっさと起きなさい」

「う…わかつてるよ…」

俺はいつものように母さんに叩き…いや、殴り起こされ、支度をすませて1階へ行った。

「…げっ…なんで…トーストの上に納豆…」

母さんは今、納豆にはまっているらしい。ちなみに俺は納豆は大の苦手だ…

「これなら冬馬でも食べられると思ったんだけど、無理かしら…？」

「俺、今日腹減ってないしいいや…」

まあ、春華となにか食いに行くか…

「じゃあ、俺、もう行くから」

「納とースト美味しいわよ！食べなくていいの？」

あれは“納とースト”というのか…なかなかのネーミングセンスの無さだ…

「い…いらない」

「あら、そう…じゃあ私が食べておくわね！」

…最初からそれが狙いか

家を出てしばらく自転車を走らせるとやがて、春華の家に着いた。
インターホンをならすと

「あつ、冬馬？もうちょっと待ってて！まだ着替えてる途中だから」

それから10分後…

「お待たせ！」

いつもピンクばかりの服だが今日は白系の服を着ていて、率直に綺

麗だと思った。

「今日はピンクじゃないんだ」
えへへと笑った春華は

「イメチェン」

と言つてバックから小さな袋を取り出した。

「今日が何の日か覚えてる？」

俺たちが付き合いはじめたのは、春だから違うし…

「その顔は忘れてたでしょ！今日は冬馬の誕生日だよ！」

「えっ…俺の誕生日って今日だったっけ」

「3月6日。今日だよ」

すっかり忘れていた。

第3話

そつえば、昔から俺が誕生日の日には春華は白い服を着てくる。昔、理由を聞いたときは“勝負服だから”と言っていた。

「イメチェンじゃなくて、俺の誕生日だからだったのか」

「気付くの遅すぎ!!」

というか何の勝負をする気なんだ?!

「悪かったよ … お詫びに春華の好きなところ連れてってやるよ。」

「……………じゃあ…うちで遊ばない?」

「えっ…他のところじゃなくていいのか?!」

「うん。うちでいい!!」

「春華が良いなら俺はいいけど…」

「じゃあ中入ろつ!!」

久しぶりに入った春華の家は、前に来たときと同じく良い匂いがする。春華の部屋は2階の一番奥だ。

この階段をのぼって……

ぐうう……

「冬馬のお腹は分かりやすいね」

「……………だろ?…」

「朝の残りの卵焼きあるけど食べる?」

「…いただきますっ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3614t/>

青春の冬

2011年12月2日15時50分発行